

お取引先さま各位

カカオ・チョコレート週刊ニュース 94号

2014/05/19 発行
株式会社 立花商店
生田 渉

お世話になります。カカオ・チョコレート関連のニュースを前週の出来毎の中から注目ニュースを5本前後ピックアップして、発行しています。カカオやチョコレート中心に取り扱っております弊社と致しましては、広く関係者の方々に読んでいただけるように、少しずつでも有益な情報をお届けできればと考えております。宜しくお願い致します。

1、市況の動き：両市場とも週明けから続落するも、週後半にかけ先週と同水準に戻る

① 最高：7月 LDN 市場£1,825 /7月 NY 市場\$2,917 (5/16) 先週比 **LDN +£12/NY -\$10**

② 最低：7月 LDN 市場£1,785 /7月 NY 市場\$2,865 (5/12) 先週比 **LDN -£6/NY +\$1**

週内価格差額 (①-②)：LDN 市場£40 (傾向↑) / NY 市場\$52 (傾向↑)

週内建玉推移：LDN 市場 251,499 枚(5/9 終了時)⇒251,416 枚 (5/15 終了時) **-83 枚**

NY 市場 200,993 枚(5/9 終了時) ⇒198,808 枚 (5/15 終了時) **-2185 枚**

【5月12日(月)】ニューヨーク小反発＝ロンドンは続落

ニューヨーク市場のココア先物は小反発。7月きりは1ドル(0.03%)高の**2865ドル**で終了した。8日に付けた3カ月ぶり安値となる2849ドルとほぼ同じ水準に下落する場面も見られたが、その後上昇に転じた。

ロンドン市場の7月きりは続落。6ポンド(0.3%)安の**1785ポンド**で引けた。ポンドの上昇に圧迫された。ディーラーらによれば、投機筋がロングポジションを手じまう可能性もあるが、産業筋の買いに相場は下支えられるという。

【5月13日(火)】ニューヨーク続伸＝ロンドン反発

ニューヨーク市場のココア先物は続伸。7月きりは36ドル(1.3%)高の2901ドルで引けた。前日は、先週付けた3カ月ぶり安値の2849ドルと同水準まで下落する場面もあった。ロンドン市場は反発。7月きりは28ポンド(1.6%)高の1813ポンドで終了した。

【5月14日(水)】両市場とも反落

ニューヨーク、ロンドンの両市場とも反落した。西アフリカのミッドクロップ期の供給が相場を圧迫した。ニューヨーク市場の7月きりは10ドル安の2891ドル、ロンドン市場の7月きりは1ポンド安の1812ポンドで引けた。

【5月15日（木）】両市場とも反発

ニューヨーク市場の7月きりは16ドル（0.6%）高の2907ドルで引けた。

ロンドン市場の7月きりは8ポンド（0.4%）高の1820ポンドで終了。この数カ月間、市場は100ポンドのレンジ取引となっている。チョコレート世界最大手バリーカレボアの最高経営責任者（CEO）は15日、2013～14年の世界のココア供給は需要と同水準になるとの見通しを明らかにした。

【5月16日（金）】両市場とも続伸

両市場とも続伸。ニューヨーク市場7月きりは10ドル（0.3%）高の**2917ドル**、ロンドン市場7月きりは5ポンド（0.3%）高の**1825ポンド**で引けた。ニューヨーク市場7月きりの週間の上げ幅は1.9%と、1月下旬以来の大きさだった。

2、西アフリカ：農家保証価格が上昇するも、国際価格との間にギャップあり(5/16)

西アフリカ全体のカカオ豆生産量が増加しても、世界的なカカオ豆の供給不足は少なくとも2015/16期まで解消できないだろう。国際的なカカオ豆の市場価格は、高値を記録した2011/12期の水準に近いが、コートジワールのような世界屈指の生産国でのカカオ豆の取引価格は、「生産力をもっと上げていこう。」というインセンティブになるほどの価格にはなっていない。

コートジワールの財務省の情報によると、10月から始まるシーズンのクロップのカカオ豆の価格は、kgあたり800 CFAフラン（1.67 USドル）以上に値上げする見込みがあるという。

コートジワール政府は2013/14期以降に収穫される農作物の内10品目について自由な値付けを廃止し、農家に支払われる農家保証価格を定めるために、これから収穫される農作物について競売を始めた。

しかしトレーダーやアナリストはこれらの値上げが生産量向上につながるほど十分なものではないとみている。専門家は「私はkgあたり800～825 CFAフランという水準は正しい方向に向けたはじめの一步であると信じている。しかし今まで見てきた5～10年を考えると、適正価格は950～1000 CFAフランであり、まだその水準には達していない。」と述べた。

この2年、世界的にカカオ豆供給不足が起きている。国際カカオ協会（ICCO）の見立てによると2013/14期に11万5000トンものカカオ豆不足が生じる。前述の専門家はまた「最も懸念していることは、もしも価格の上昇が不十分で2014/15期の生産向上につながるような改善策がとられなかったら、次の2015/16期においても構造的に供給不足になるという危険を回避できない。」と述べた。

コートジワールの農家は生産量向上のためにはkgあたり1000 CFAフランに近づく必要があると強調した。Daloaの農家は「もしkgあたり1000 CFAフランになれば、生産力向上のために多くの設備投資ができる。」と述べ、またSoubreの農家は「肥料や化学薬品の価格がとても高い。我々が多くの設備投資をしようとする利益を削ってしまうことになる。だからもしカカオ豆の価格が900～1000 CFAフランになれば

ば、気持ち的にもだいぶ楽になる。」と述べた。2013/14期だけでなく、翌年も継続的に不足するだろうという予測はされているが、数字などの詳しい情報はまだ言及されていない。

ロンドン先物市場は2013年、需給ギャップが要因となり20%上昇した。需要の伸びを埋めるためには、毎年10万トンのカカオ豆が追加が必要とされており、トレーダーによると自由に価格を決めることができるカカオ豆生産国ではすでに高値がつけられている。

欧州のトレーダーは「カメルーン、ナイジェリア、シエラレオネのように完全な自由競争を採用している国は市場価格がすでに1000CFAフランになっている。」と述べた。

3、ガーナ：メインクロップのカカオ豆購入、1日時点で75万トン(5/15)

ガーナのカカオ豆監督機関・ココア委員会(Cocobod)が14日公表した統計によると、同国の2013～14年度メインクロップ期(13年10月18日～14年5月1日)のカカオ豆買い付け量は75万0122トンに達し、前年同期(63万8654トン)比17.5%増加した。ガーナは世界2位のカカオ豆生産国。メインクロップ期は約85万トンのカカオ豆買い付けを計画している。

4、コートジ：カカオ豆の農家保証価格引き上げへ(5/15)

世界最大のカカオ生産国であるコートジは、2014/15期となる来シーズン(既に105万トンが先物販売されている)からは、農家保証価格を上げる見込みである。

カカオ豆価格は10月からのメインクロップに対して750CFAフランで固定され、その価格は4月～9月のミッドクロップについても維持された。ある専門家は「4月の終わりまでに2014/15期についてすでに105万トンのカカオ豆の販売契約を結んだ。」と述べた。

コートジは1月初旬までに2013/14期分の145万トン売り切った。昨年はカカオ豆の供給不足によりカカオ相場が20%上昇したため、農家にとって大きな利益になった。

コートジが来シーズンのカカオ豆の値上げをすると、隣国のガーナにプレッシャーを与えることになる。ガーナでは現地通貨が急激に下落しており、そのことがコートジへの密輸を加速させている。

今シーズンは現時点までに10万トンものガーナ産カカオ豆がコートジへと密輸されており、もしコートジとガーナのカカオ豆に価格差が広がると、状況はさらに悪くなるだろう。

コートジの財務省によると年間のカカオ豆生産量は過去10年の平均である140万トンよりも増加するという。しかし一方でコートジ国内のカカオの木が老化しており、長期的にみると生産高が低下するという懸念もある。財務省の担当は「我々の研究によると、コートジのカカオの生産量は当面増加し、そこから得られる収入も拡大していくだろう。一度新しいカカオの木が成長したら、その後の収穫量は2、3年間は150万トンを上回るだろう。」と述べた。

5、バリーカレボー社：2013/14期の世界のカカオ市場についての見解(5/15)

バリーカレボーは今期のカカオ豆供給量は2103/14期とほぼ同水準であると予測している。同社は初め、多少

の供給不足を見込んでいたが、西アフリカでの収穫量が予想を上回り供給量を押し上げ、供給不足を和らげているという見方を示した。バリーカレポーのCEOは「私は今期に供給不足が起こるとは考えていない。需給バランスがとれるだろう。」と述べた。

6、ガーナ：ガーナ通貨下落により、カカオ豆のガーナ国外への密輸が加速(5/13)

ガーナ通貨（セディ）下落が原因となり、カカオ豆の国外への密輸が加速している。カカオ豆生産量世界第1位のコートジと世界第2位のガーナの2国間での密輸は今に始まったことではないが、ここ10年で特に問題となっているのは、コートジ産の豆が不法に盗まれ、ガーナにもっていかれてしまうことにある。

しかし最近では、密輸の原因が通貨の問題と絡んでおり以前と状況が異なっている。

ガーナセディは対米ドルでおよそ23%下落した。一方でコートジのCFAフランは安定しており、コートジでは農家保証価格がガーナでの価格と比べ約24%高くなった。

輸出業者は「コートジのカカオ豆の価格からすると、ガーナの農家は輸出業者に売るより、密輸業者に売った方がより大きな利益を得られる。」と述べた。カカオ豆の取扱い業者は「ガーナ国外へ密輸されている主な要因はガーナ通貨の下落にある。COCOBODの報告によると、密輸は少なく見積もって6万トン、多い時で10万トンほどある。」という。

COCOBODのスポークスマンは「我々は各地の当局をサポートし密輸業者と闘うために様々な政策を強化している。」と述べた。欧州のトレーダーからロイターに寄せられた情報によると、密輸されたカカオ豆はおよそ5万トンから6万トンとなっている。

コートジの港には5月11日までに約130万トンのカカオ豆が着荷した。昨年比で10%上昇となった。

ちなみにコートジのメインクロップは10月～3月であり取引は10月2日から開始される。

ガーナのカカオ豆が密輸に向けられているが、生産量は昨年比で15%上回っているなど依然として生産量は多く、その量はメインクロップが始まって以来70万4266トンに達した。

しかし一方でコートジは4月から9月のミッドクロップに対しては、農家保証価格をkgあたり750CFAフランに維持させることを決定した。もしコートジが価格を上げない限り、逆に今後はガーナへの密輸が起こる可能性がある。

*特別の注釈がない記事は全て、基本的にロイター通信社のニュースソースを基に作成したものです。

《お問い合わせ先、配信希望または、停止のご連絡先》

株式会社 立花商店 東京支店 生田

TEL03-5785-3545 w-ikuta@tachibana-grp.co.jp